

AT&T (T)

【セクター】 通信サービス

信買

【市場】 NYSE

信売

【企業概要】

米国の大手通信サービス企業です。2021年からメディア関連事業の切り離しを順次進め、携帯電話サービスと固定通信サービスを提供するシンプルな通信企業に戻りました。2023年12月期の売上構成比は、通信サービスが96.8%（うちモビリティが68.9%、ビジネスワイヤラインが17.1%、コンシューマーワイヤラインが10.8%）、南米事業が3.2%です。米国の携帯電話市場はAT&T、ベライゾンコミュニケーションズ、スプリントを買収したTモバイルUSの3社が競っています。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

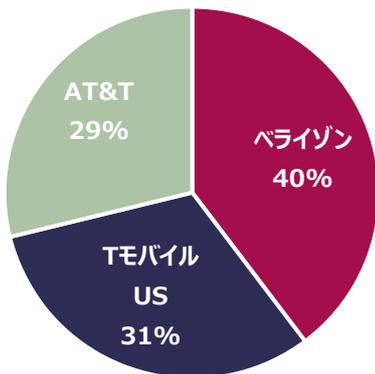
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
22.12期	120,741	20,985	2.79	1.11	13.7	-6.6	26.4
23.12期	122,428	16,653	2.29	1.11	14.4	14.1	29.3
24.12期（予）	123,430	16,401	2.25	1.12	16.2	14.1	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

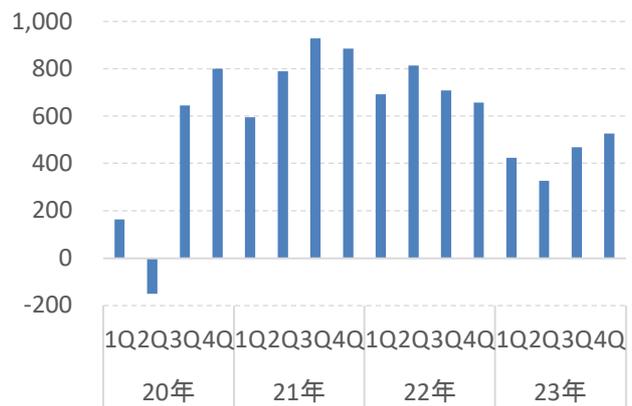
【主要指標】

米大手3社の携帯電話契約市場シェア



（出所）BloombergデータよりSBI証券作成、2022年末

後払い携帯電話契約の純増（千人）



（出所）BloombergデータよりSBI証券作成

【会社の見方】

景気変動の影響を受けやすいメディア事業（ワーナーブラザーズなど）を切り離して、携帯電話とブロードバンドに集中するという事業戦略の転換によって安定した業績をあげつつあります。主力のモビリティ事業では、後払い契約者の力強い増加と価格引き上げにより、サービス収入の伸びは3%超の水準が維持されています。5Gサービスでは取得したCバンドと3.45ギガヘルツの周波数帯域によって、ベライゾン、Tモバイルに対する競争力が向上していると考えられます。また、ブロードバンド分野で顧客開拓に注力している「ATT ファイバー」の契約は、2025年末に3,000万件への拡大を目指しています。

【見通し・注目点】

10-12月期業績は売上が前年同期比2%増、調整後EPSが同11%減でした。調整後EPSは市場予想を3%下回ったものの、モバイル・サービス収入が前年同期比4%増、携帯電話の後払い契約者純増が52.6万人、光ファイバー契約の純増が27.3万人など、重要な経営指標は市場予想を上回って堅調な内容でした。一方、2024年12月期のモバイル・サービス収入の伸びを前年比約3%増として、市場予想の同3.4%増を下回ったことが嫌気されました。ブロードバンド収入の伸びは前年比7%増以上、フリーキャッシュフローは170～180億ドルを見込みます。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。